

鹿児島市内で出土したヨーロッパ製陶磁器

主査 西野元勝

1 はじめに

19世紀の鹿児島は、西洋に影響を受けて近代化が進み、海を通して世界とつながっていた。その中心である鹿児島市内では、4遺跡で計9点(右図)のヨーロッパ製陶磁器(いずれも19世紀代)が出土している。

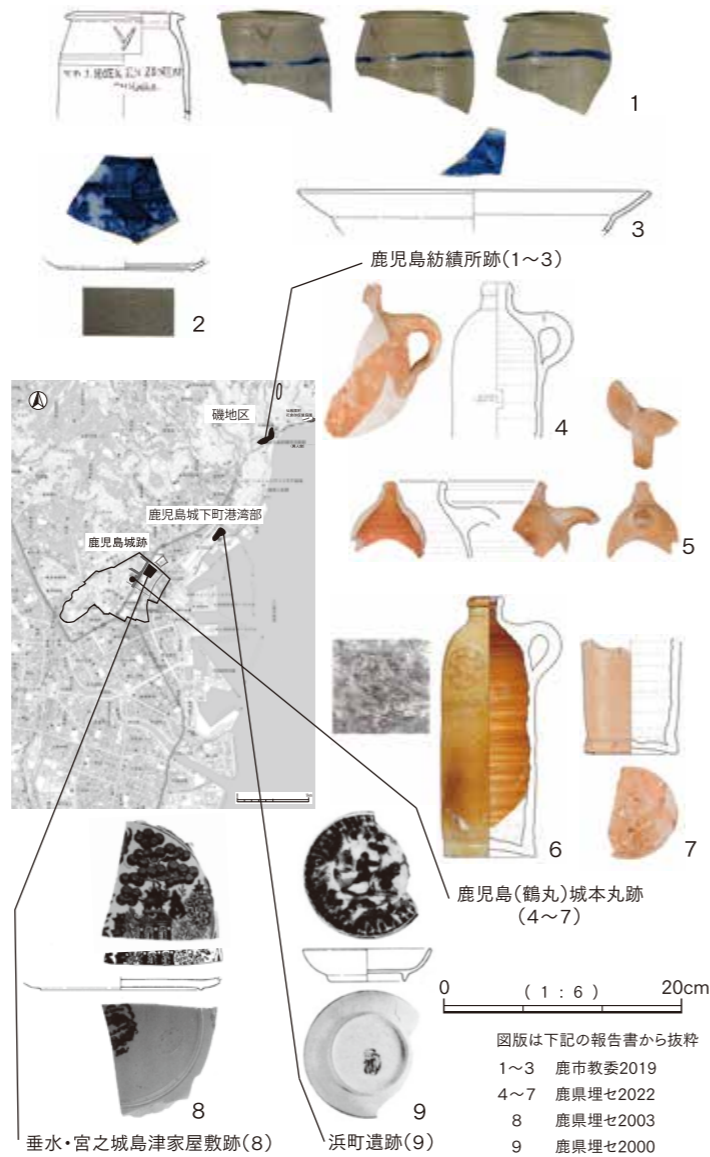
2 出土したヨーロッパ製陶磁器

鹿児島紡績所跡では、3点(図1~3)が出土した。1は、イギリスまたはオランダ製の陶器皿で、「ワイルドローズ」と呼ばれる文様が描かれている(19世紀中頃)。2は、ドイツ・ラインラウト地方のヴェスターヴァルトで生産された塩釉炆器壺で、外面には、オランダ語で「OOL HOEK EN ZONEN」「OO NHAGE」と刻まれている(19世紀)。このような壺は、ピクルス等の保存容器として焼かれたものである。3は、オランダのマーstriヒトのペトロス・レグウー窯製の陶器皿で、高台内側には、「PETRUS」、「REGOUT」、「22」「MAESTRICHT」とオランダ語が刻印されている。内面見込みの文様は、ヒンドースタンもしくはヒンドスタンと呼ばれ、1850年代から1880年代に使われていたものである。

鹿児島(鶴丸)城本丸跡では、肩部に把手を持つドイツのラインラウト地方の塩釉炆器瓶が4点(図4~7)出土した。内面は、施釉のものと無釉のものがある(全て19世紀)。6の胴部上方には、円の中心に犬、その周囲には、SELTZER(ドイツのヘッセン州のニーダーセルターズで産出され、17世紀から世界各地に輸出された鉱泉水)、その下には、「HERZOGTHUM NASSAU」(ドイツ連邦の加盟国であったナッサウ公国(1806-1866年)が刻まれている。この瓶は、ナッサウ公国が鉱泉水を輸出するために用いたものである。

垂水・宮之城島津家屋敷跡では、イギリスのドーソン窯製の陶器皿(図8)が出土した。コバルトの図柄のパターンは、「ザ・サプライズ」(19世紀)。

浜町遺跡では、オランダのマーstriヒトのペトロス・レグウー窯製の陶器皿(図9)が出土した。内面見込みに楼閣と樹木の図柄が描かれている。高台内側には、釉文字と「P.REGOUT 19 MASTRIT」の印判がある(19世紀)。



3 ヨーロッパ陶磁器が出土した遺跡とその背景

鹿児島市内のヨーロッパ製陶磁器が出土した遺跡は、鹿児島(鶴丸)城内、船着き場周辺の鹿児島城下町湾岸部、海外の技術を導入した集成館事業が行われた磯地区に限られる。これらは、海外との貿易によって持ち込まれたと考えられるが、訪れた西洋人が直接持ち込んだものや、そのもてなしに用意された可能性もある。19世紀の鹿児島は、海外への強い関心を持ち、様々な交流をしていた。ヨーロッパ製陶磁器は、それを裏付けるものといえる。

<主要参考文献>
 鹿児島県立埋蔵文化財センター2000「浜町遺跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(25)
 鹿児島県立埋蔵文化財センター2003「垂水・宮之城島津家屋敷跡」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(48)
 鹿児島県立埋蔵文化財センター2022「鹿児島(鶴丸)城跡一北御門跡周辺・御角櫓跡周辺・能舞台跡一」鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(214)
 鹿児島県教育委員会2019「史跡 鹿児島紡績所跡II」鹿児島県重要産業遺産関係調査報告書(2)
 橋口直・上東克彦2002「鹿児島県内の遺跡におけるヨーロッパ陶磁器一薩摩におけるヨーロッパ陶磁器の需要から」『からから』第11号 鹿児島陶磁器研究会

黎明館では、昭和58年の開館以来、毎年学芸員資格取得を目指す実習生の受け入れを行っています。これまで、鹿児島県内の大学をはじめ、県外・国外の大学や教育機関から1000名以上の実習生を受け入れてきました。

今年度は、8月17日から7日間の実習に13名の実習生が参加しました。実習では、博物館における資料保存や展示環境などについて学ぶとともに、拓本の取り方、古文書整理、掛け軸や刀、絵画、焼き物の扱い方、民具の取り扱いなどを実践的に学びました。また、広報業務や展示場研修、受付業務なども体験したほか、実習期間中に行われたイベント「黎明館キッズフェスタ」の運営にも携わりました。

先史古代



展示場で古代の鹿児島の特色について説明を受けたり、鹿児島城跡から出土した瓦を使って、拓本の取り方を学びました。

美術工芸



掛け軸、刀、絵画、焼き物と、様々な美術工芸品の取り扱いを学びました。

展示場研修



来場者に応じて、わかりやすい言葉で説明するように工夫しました。

受付・案内業務



総合案内や発券カウンター業務を体験しました。

実習生の声
 来館者への説明を通して、コミュニケーション能力が向上し、周りの実習生と協力したことで協調性も身につけられました。博物館に対する認識が深まることにも、社会に生きる人間として成長できました。

歴史



古文書を整理し、計測、撮影、文書名を付ける実習を行いました。

実習生の声
 資料整理の実習は、実際に資料に触れるので、扱いにはとても気を配りました。くずし字が読めず、難しいと感じることもありましたが、読める字があることも嬉しかったです。

広報



「自分がワークショップを企画したら？」をテーマに、イベント計画を考えました。

イベント運営 (黎明館キッズフェスタ)



小学生を対象にした夏休みのイベント「黎明館キッズフェスタ」。実習生は、展示場での解説を担当しました。実習生同士で指摘し合ったり、わかりやすい説明を目指すなど、念入りに事前準備を行いました。当日は少し緊張した様子も見られましたが、小学生に目線を合わせて話したり、積極的に話しかけたりと、事前準備の成果を発揮することができました。